

精密放電加工

橋川製作所
産学官の連携による
開発で事業拡大を図る

広島県広島市



橋川栄二社長(43)

放電加工の技術開発で、大学や地域研究共同センター、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーなどと提携して注目を集めているのが、橋川製作所（広島県広島市）だ。今年三月も国の施

策の一つである、大学発の核となる基本技術を事業化しているという「産業クラスター計画」で、同社が参画する機械産業新生プロジェクトは七〇〇〇万円の補助を受け取った。

同社は年商五四〇〇万円ながら、その技術は評価されており、県の補助金事業や国の委託研究開発事業などを手掛けている。

同社の主業務である放電加工とは、金型や冶金工具類の中で



▲放電加工技術のプロフェッショナル集団

も形状が複雑で、通常の切削や研削では不可能な加工でも、雷と同じ現象を人工的に発生させることで加工できるようにした技術のことである。

ところが同社の橋川栄二社長（四三歳）は、大学卒業後、放電加工機器製造会社に入社したものの、当時は放電加工という言葉すら知らなかったという。同社では、主にシステム開発を行っていたが、同社を退職する二年前に「放電技術を学ばせてほしい」と社長に直談判。父親が

経営していた衣装缶製造に対して先行き不安があったことから、橋川社長は、放電加工を家業の新たな切り札にしようと考えたのだ。

一四年前に父親の会社に入社。早速経営改革に乗り出した。顧客は前職時代に技術指導を行っていた企業や公的研究所などが中心。少数精鋭の技術者集団である同社では同業他社と異なり、機器の購入を前提とした加工サービスを行っていないので、受注も増えている。

「これからの課題は産学官で連携して開発したものを事業としてどのように結びつけていくかです」

会社DATA

一九六四年創業、七五年設立。もともとは衣装缶の製造だったが、橋川社長が入社したのを機に放電加工業へ転換。国の施策である「産業クラスター計画」のプロジェクトに注力している。